

～令和気象に対応したコンパクトなイネづくり「適正籾数で登熟向上」!～  
**ワキ対策と適期中干しで健全なイネづくり!**

巻農業普及  
 指導センター

### 【管理の重点ポイント】

- 初期生育確保のため、田植え2～3週間後に一時落水し、ワキの抑制を図る。
- 過剰生育の防止が主目的であるため、中干しは開始時期が重要。  
 生育状況を確認し、田植え後30日頃に遅れずに開始する。(表1参照)
- 中干しは田面に小ヒビが入るくらいまでで終了する。
- 遅くとも出穂の1か月前には中干しを終了し、浅水の間断灌水から徐々に飽水管理へ移行する。

#### 1 ワキ対策による初期生育の促進

- ・田植え2～3週間後には場へ足を踏み入れ、ワキ(田面からの気泡発生)が確認される場合、2～3日間落水して土壌へ酸素供給を行う。
- ・その後、再度浅水管理として、適期中干しを開始する。

昨年のひこばえが大きく、春先の田んぼの乾きが悪かったため、ワキの多発生が懸念される。  
 ワキの多発は初期生育を停滞させ収量低下につながるため、ワキの発生状況を必ず確認する。

#### 2 中干し開始時期

○ **中干し開始適期**

【条間が見渡せる状態】



✗ **適期を過ぎている**

【条間が見えにくい状態】



表1 品種ごとの中干し開始適期

品 種	移植期	中干し開始適期		
		めやす	1株あたり茎数	m <sup>2</sup> あたり茎数
コシヒカリ	5月3～6日	6月2～5日	(50株植) ⇒ <u>16本</u>	250本
	5月10日	6月9日	(60株植) ⇒ 14本	
こしいぶき	5月3～6日	6月2～5日	(60株植) ⇒ <u>15本</u>	280本
新之助	5月11～15日	6月5～9日*	(50株植) ⇒ <u>18本</u>	280本

\*新之助は田植え後25日頃が中干し開始の目安

※中干し開始が遅れると、過剰生育・過剰籾数・倒伏を助長し、収量・品質の低下につながる。

### 3 中干し・溝切りのポイント

#### (1) 適期に開始

- ・この時期の**茎数は1日で1株当たり1本増加**する。田植え後 25 日頃に茎数を確認し、開始予定日を予測する。**開始目安の茎数になったら遅れずに中干しを開始**する（「2」の写真、表1参照）。
- ・6月中旬に用水が止まる地域では、田植え後 30 日で一旦中干しに入る。その後、用水が止まる前に一度灌水し、そのまま自然落水して再度中干しに入る。
- ・**溝切りは、8～10条ごと、深さは10cm以上**でしっかり切り、**末端を水尻に接続**する。

#### (2) 適度で終了



中干し程度は、田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく状態まで



田面に大きなヒビが入ると干し過ぎ根の切断や発根が抑制される

出穂 1 か月前までに中干しを終了する。  
中干し終了が遅れると品質低下になりやすい。

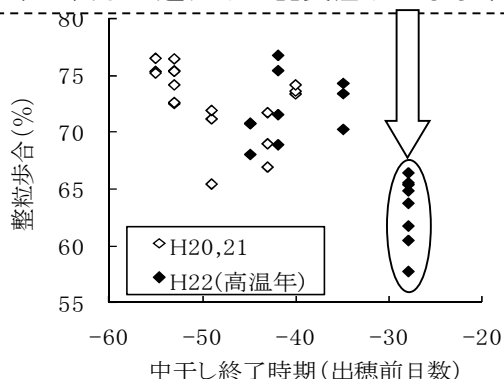


図1 中干し終了時期と整粒歩合

(H20～22、新潟県作物研究センター)

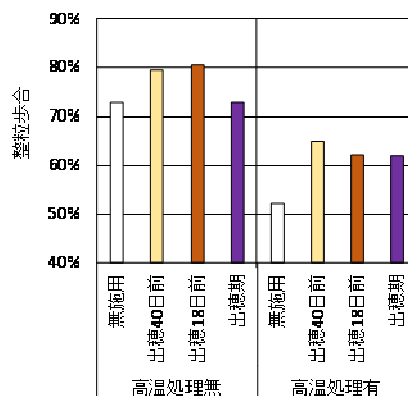


図2 ケイ酸追肥時期別の整粒歩合

(H28、新潟県農業総合研究所)

#### (3) 中干し後の水管理

中干し終了後は、浅水の間断灌水から徐々に飽水管理へ移行する。中干し後の長期湛水を避け、飽水管理により、うわ根の発根促進や根の健全化及び地耐力の維持を図る。

### 4 この時期の管理

#### (1) ケイ酸追肥（6月末～7月上旬）で品質向上

ケイ酸追肥は、高温時での「根の活力維持」「登熟向上」等の効果があり、登熟期の高温による品質低下を軽減する効果がある（図2参照）。

#### (2) カメムシ類による斑点米防止対策

ほ場周辺の雑草はカメムシの生息地となるため、定期的に草刈りを行う。特に、6月中～下旬と7月中旬には、地域一斉での草刈りを実施すると効果が高い。

#### (3) 補植苗の処分

いもち病の発生源になるため、速やかに処分する。